

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
【部門区分】第3部門第2区分  
【発行日】平成16年11月4日(2004.11.4)

【公表番号】特表2000-506501(P2000-506501A)

【公表日】平成12年5月30日(2000.5.30)

【出願番号】特願平9-523366

【国際特許分類第7版】

C 0 7 K 16/42

A 6 1 P 27/02

A 6 1 P 35/00

A 6 1 K 39/395

A 6 1 K 49/00

// G 0 1 N 33/53

【F I】

C 0 7 K 16/42

A 6 1 K 31/00 6 2 7 A

A 6 1 K 31/00 6 3 5

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 K 49/00 A

G 0 1 N 33/53 D

【誤訳訂正書】

【提出日】平成15年12月19日(2003.12.19)

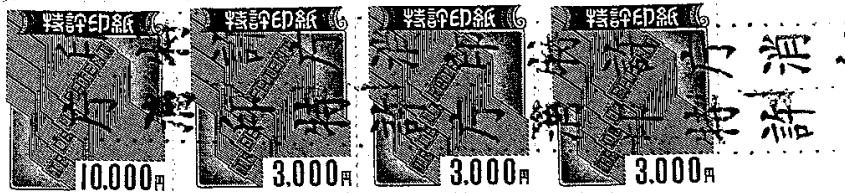
【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】補正の内容のとおり

【訂正方法】変更

【訂正の内容】



## 誤 訳 訂 正 書

(19,000 円)



平成15年12月19日

特許庁長官 殿

## 1. 事件の表示

平成9年特許願第523366号

## 2. 特許出願人

名 称     サントル・ナショナル・ドウ・ラ・ルシエルシェ・  
           シャンティフィク

## 3. 代 理 人

住 所     〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-12 SVAX TS ビル  
氏 名     弁理士 (7866) 津 国 肇  
           電話 (3502) 7212

方 式 査  
審

#### 4. 訂正の内容

##### I. 請求の範囲の欄

別紙の通り訂正を行う。

##### II. 明細書の欄

(1) 明細書7頁12行及び14行に記載の「特定の抗-VEGF IgG」を「特異的抗-VEGF IgG」と誤訳訂正する。

(2) 明細書7頁21～23行に記載の「・抗-VEGF IgGを産生し、抗-アロタイプもしくはアイソタイプ抗体を排除するために用いたウサギの予備免疫Igを用いて調製したアフィニティーカラムでの免疫吸着、」を「・抗-アロタイプもしくはアイソタイプ抗体を排除するために、抗-VEGF IgGの生産に用いたウサギの免疫前Igを用いて調製したアフィニティーカラムでの免疫吸着、」と誤訳訂正する。

(3) (1)と同様に明細書8頁2行及び4行に記載の「特定の抗-VEGF IgG」を「特異的抗-VEGF IgG」と誤訳訂正する。

(4) (3)と同様に明細書8頁11～13行に記載の「・抗-VEGF IgGを産生し、抗-アロタイプもしくはアイソタイプ抗体を排除するために用いたウサギの予備免疫Igを用いて調製したアフィニティーカラムでの免疫吸着、」を「・抗-アロタイプもしくはアイソタイプ抗体を排除するために、抗-VEGF IgGの生産に用いたウサギの免疫前Igを用いて調製したアフィニティーカラムでの免疫吸着、」と誤訳訂正する。

#### 5. 訂正の理由等

##### I. 請求の範囲の欄

(1) について、国際出願日における請求項13に記載の「specific anti-VEGF IgG」を「特定の抗-VEGF IgG」と誤訳したため、これを「特異的抗-VEGF IgG」とする訂正を行う。

(2) について、国際出願日における請求項13に記載の「.an immunoadsorption on an affinity column prepared with the pre-immune Ig of the rabbit which has been used to produce the anti-VEGF IgG, to

eliminate the anti-allotypic or isotypic antibodies,」を「・抗-VEGF IgGを産生し、抗-アロタイプもしくはアイソタイプ抗体を排除するために用いたウサギの予備免疫Igを用いて調製したアフィニティーカラムでの免疫吸着,」と誤訳したため、これを「・抗-アロタイプもしくはアイソタイプ抗体を排除するために、抗-VEGF IgGの生産に用いたウサギの免疫前Igを用いて調製したアフィニティーカラムでの免疫吸着,」とする訂正を行う。

(3) について、(1) と同様に国際出願日における請求項14に記載の「specific anti-VEGF IgG」を「特定の抗-VEGF IgG」と誤訳したため、これを「特異的抗-VEGF IgG」とする訂正を行う。

(4) について、(2) と同様に国際出願日における請求項14に記載の「.an immunoabsorption on an affinity column prepared with the pre-immune Ig of the rabbit which has been used to produce the anti-VEGF IgG, to eliminate the anti-allotypic or isotypic antibodies,」を「・抗-VEGF IgGを産生し、抗-アロタイプもしくはアイソタイプ抗体を排除するために用いたウサギの予備免疫Igを用いて調製したアフィニティーカラムでの免疫吸着,」と誤訳したため、これを「・抗-アロタイプもしくはアイソタイプ抗体を排除するために、抗-VEGF IgGの生産に用いたウサギの免疫前Igを用いて調製したアフィニティーカラムでの免疫吸着,」とする訂正を行う。

## II. 明細書の欄

(1) について、国際出願日における明細書8頁6行及び8行に記載の「specific anti-VEGF IgG」を「特定の抗-VEGF IgG」と誤訳したため、これを「特異的抗-VEGF IgG」とする訂正を行う。

(2) について、国際出願日における明細書8頁16行～19行に記載の「.an immunoabsorption on an affinity column prepared with the pre-immune Ig of the rabbit which has been used to produce the anti-VEGF IgG, to eliminate the anti-allotypic or isotypic antibodies,」を「・抗-VEGF IgGを産生し、抗-アロタイプもしくはアイソタイプ抗体を排除するために用いたウサギの予備免疫Igを用いて調製したアフィニティーカラムでの免疫吸着,」と誤訳したため、これを「・抗-アロタイプもしくはアイソタイプ抗体を

排除するために、抗-VEGF IgGの生産に用いたウサギの免疫前Igを用いて調製したアフィニティーカラムでの免疫吸着、」とする訂正を行う。

(3) について、(1) と同様に国際出願日における明細書8頁27行及び29行に記載の「specific anti-VEGF IgG」を「特定の抗-VEGF IgG」と誤訳したため、これを「特異的抗-VEGF IgG」とする訂正を行う。

(4) について、(2) と同様に国際出願日における明細書9頁7行～10行に記載の「.an immunoadsorption on an affinity column prepared with the pre-immune Ig of the rabbit which has been used to produce the anti-VEGF IgG, to eliminate the anti-allotypic or isotypic antibodies,」を「・抗-VEGF IgGを産生し、抗-アロタイプもしくはアイソタイプ抗体を排除するために用いたウサギの予備免疫Igを用いて調製したアフィニティーカラムでの免疫吸着、」と誤訳したため、これを「・抗-アロタイプもしくはアイソタイプ抗体を排除するために抗-VEGF IgGの生産に用いたウサギの免疫前Igを用いて調製したアフィニティーカラムでの免疫吸着、」とする訂正を行う。

(別紙)

請求の範囲

1. 静止した内皮細胞には影響を与えずに、脈管形成を阻害するかあるいは脈管形成を促進する、脈管形成過程に関与する内皮細胞を含む病状の処置のための医薬の調製のための、あるいは、脈管形成に関与する内皮細胞を含む病状の診断のための製品の調製のための、抗イディオタイプ血管内皮細胞成長因子抗体の使用。
2. KDRレセプターの選択的刺激により脈管形成内皮細胞を含む病状の処置のための医薬の調製のための抗イディオタイプ血管内皮細胞成長因子抗体の使用。
3. 静止した内皮細胞には影響を与えずに、脈管形成を阻害する、脈管形成過程に関与する内皮細胞を含む病状の処置のための医薬の調製のための、請求項1または2記載の抗イディオタイプ血管内皮細胞成長因子抗体の使用であって、その抗イディオタイプ抗体が、その機能がタンパク質の翻訳をブロックすることであるトキシンに結合するか、あるいはその抗イディオタイプ抗体がF a bフラグメントの形態である、使用。
4. 静止した内皮細胞には影響を与えずに、脈管形成を促進する、脈管形成過程に関与する内皮細胞を含む病状の処置のための医薬の調製のための、請求項1または2記載の抗イディオタイプ血管内皮細胞成長因子抗体の使用。
5. 抗体が、サポリンおよびリシンまたは放射活性元素、例えば、ヨウ素-125または-131から選択されるトキシンに結合している、請求項3記載の抗イディオタイプ血管内皮細胞成長因子抗体の使用。
6. 癒痕形成または卵巣の黄体の成熟過程において血管形成のスピードを増加させる、生理学的脈管形成を刺激するための、あるいは血管血栓症の間に虚血にされた領域を再灌流するために血管の閉塞性の異常の過程で脈管形成を刺激するための医薬の調製のための抗イディオタイプ血管内皮細胞成長因子抗体の使用。
7. トキシンと結合した抗イディオタイプ抗体または抗イディオタイプ抗体のF a bフラグメントの、脈管形成の阻害を必要とする病状、例えば、癌、糖尿病性網膜症および角膜移植の拒絶、の処置のための医薬の調製のための使用。
8. 脈管形成過程に関与する内皮細胞を含む病状の診断のための製品の調製のための、請求項1記載の抗イディオタイプ血管内皮細胞成長因子抗体の使用。

9. ヒトKDRレセプターの、あるいはネズミflk-1レセプターのリガンドであり、かつfltのリガンドではないことを特徴とする、抗イディオタイプ血管内皮細胞成長因子抗体。

10. 以下の性質：

- KDRに対して特異的である、
- 循環している、
- 約23日の、特に約21日の、そしてさらに特定すると22.5日の半減期を有する、

- 200kDaのタンパク質のチロシンにリン酸化を誘導する、
- 血管内皮細胞の増殖を誘導する、
- 内皮細胞の移動を誘導しない、
- 脈管形成を刺激する、
- 低血圧を引き起こさない、
- 血管透過性に影響を与えない、

を有することを特徴とする、抗イディオタイプ血管内皮細胞成長因子抗体。

11. 請求項9記載の抗イディオタイプ抗体のFabフラグメント。

12. 請求項9記載の抗イディオタイプ抗体と、特にサポリンおよびリシンから選ばれるトキシンとの間の複合体、または請求項9記載の抗イディオタイプ抗体とヨウ素-125または-131のような放射活性元素との間の複合体。

13. 以下の方法：

- 精製したVEGFを動物、特にウサギに注射する、
- 血液を抜き取って特異的抗-VEGF IgGを含む精製Igを、例えば、プロテインAに対するアフィニティークロマトグラフィーで回収し、次いで、可能な段階で、その特異的抗-VEGF IgGを精製Igから、例えば、VEGFに対するアフィニティークロマトグラフィーにより精製する、

- 上記の精製Igまたは上記の精製抗-VEGF IgGを、VEGFの注射に用いたのと同じ種の動物に、特にVEGFの注射に用いたのと同じ起源のウサギの膝窩神経節に注射する、

- 血液を抜き取り、全Igを、例えば、プロテインAにより回収し、次

いで、その全 I g を 2 つの免疫吸着に付す：

- ・抗－アロタイプもしくはアイソタイプ抗体を排除するために、抗－VEGF I g G の産生に用いたウサギの免疫前 I g を用いて調製したアフィニティーカラムでの免疫吸着、
- ・抗イディオタイプを精製するために抗－VEGF I g G を用いて調製したアフィニティーカラムでの免疫吸着

によって得られ得る請求項 9 記載の抗－イディオタイプ抗体。

14. ー精製 VEGF を動物、特にウサギに注射する、

ー血液を抜き取って特異的抗－VEGF I g G を含む精製 I g を、例えば、プロテイン A に対するアフィニティークロマトグラフィーで回収し、次いで、可能な段階で、その特異的抗－VEGF I g G を精製 I g から、例えば、VEGF に対するアフィニティークロマトグラフィーにより精製する、

ー上記の精製 I g または上記の精製抗－VEGF I g G を、VEGF の注射に用いたのと同じ種の動物に、特に VEGF の注射に用いたのと同じ起源のウサギの膝窩神経節に注射する、

ー血液を抜き取り、全 I g を、例えば、プロテイン A により回収し、次いで、その全 I g を 2 つの免疫吸着に付す：

- ・抗－アロタイプもしくはアイソタイプ抗体を排除するために、抗－VEGF I g G の産生に用いたウサギの免疫前 I g を用いて調製したアフィニティークラムでの免疫吸着、
- ・抗イディオタイプを精製するために抗－VEGF I g G を用いて調製したアフィニティークラムでの免疫吸着

を特徴とする、請求項 9 記載の抗イディオタイプ抗体の調製方法。

15. 活性物質として、請求項 9 または 10 記載の抗イディオタイプ抗体、または請求項 11 記載の Fab フラグメント、または請求項 12 記載の複合体を含むことを特徴とする、医薬組成物。